

そら  
空(宇宙)の道



天空を見上げて

月の歩きかた マイケル・カーロヴィッツ著  
二見書房 2008年

地球の隣人・月。形を変え、場所を変え、月は私たちを魅了する。

夜空からはじまる天文学入門  
渡部潤一著 化学同人 2009年

まずは夜空を見上げ、きらめく星を楽しもう。  
星座を景色に惑星たちはダンスをする。

暦と星座のはじまり  
坂上務著 河出書房新社 2001年

夜空を巡る星に、太古から人々は思いを馳せてきた。  
星と人間の営みとの歴史を探る。

ガリレオ・ガリレイ 宗教と科学のはざままで  
ジェームズ・マクララン著 大月書店 2007年  
(オックスフォード科学の肖像)

1609年、ガリレオは新しい望遠鏡を月に向けた。  
それは新しい宇宙論への出発点だった。



吹きめぐる風の道

最後の冒険家 石川直樹著 集英社 2008年 冒険家、神田道夫。ジェット気流を利用して太平洋の熱気球横断に挑むが・・・。

世界風紀行 見えない風が見える  
環境デザイン研究所編 学習研究社 2002年

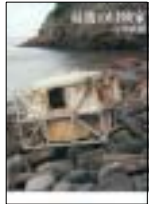
風は私たちに心地よさを与え、ときには脅威ともなる。  
そんな風に人は様々な名前を与えた。

台風をついせき竜巻のつきゆう  
かこさとし作 小峰書店 2001年

風のうずまき、台風と竜巻。  
どのようにして起こるのか、追跡開始!

風を見たことある? 井出隆夫文 杉田徹写真  
福音館書店 2006年 (月刊たぐさのふしぎ通巻260号)

今あなたが見ているのはどんな風?  
風の音は聞こえる? 風のおいしさは?



生き物たちの空の道

渡り鳥 方向感覚のふしぎ  
倉橋和彦文 桑島正充絵 佑学社 1988年

地図も磁石も持っていない。  
渡り鳥はどうやって空の道を見つけるのだろうか?

なぞの渡りを追う オオヒシクイの繁殖地をさがして  
池内俊雄著 岩崎保宏絵 ポプラ社 2004年

日本で最大のガン、オオヒシクイ。  
春になるとどこに姿を消すのか、その行く先を追う。

アサギマダラ海を渡る蝶の謎 佐藤英治写真と文  
山と溪谷社 2006年

アサギマダラは謎の蝶だ。  
こんなに小さな体ではるばる海を越えるのはなぜ?



地の道



小さな生き物たちの足あと

タネはどこからきたか? 鷲谷いづみ文  
山と溪谷社 2002年

風、動物、水・・・あらゆる道を利用して、  
「タネ=芽生えの素」は移動していく。



地面の下のいきもの 松岡達英え 福音館書店 1988年 地面の下にも生き物はいっぱい! 虫も動物も土の中に道をつくり暮らしている。

砂漠の虫の水さがし 山口進写真・文  
福音館書店 2000年

木も草も水もない。そんなイメージの砂漠だが、  
虫やトカゲたちの足跡が絵のように残っていた。



森や野山で

けもの道 宮崎学著 偕成社 2006年  
(森の写真動物記 1)

森に住む動物たちは、自分の道を持っている。  
倒木の上、藪の中、時には道路も彼らの道だ。

タヌキまるごと図鑑 盛口満作 大日本図書 1997年

タヌキってどんな生き物だろう? タヌキの通る道を歩けばその気分わかるかも。

クウとサルが鳴くとき 下北のサルから学んだこと  
松岡史朗著 地人書館 2000年

世界最北限の下北半島のサルたち。  
群れで遊動するのはなぜ? まずはその謎を追ってみよう。

厳しい自然の中で

カリブの旅 星野道夫著 朝日新聞社1998年  
(星野道夫の仕事 1)

壮大なアラスカを10万頭のカリブーが大移動する。  
子を産み育て、生命を次につなげるために。

凍 沢木耕太郎著 新潮社 2005年

『自分が登ることで壁に一本の美しいラインが引かれる。』  
山野井夫妻は、ヒマラヤのギャチュンカン北壁から登頂を目指す。

恐竜の足あとを追え 大地の研究  
松川正樹著 あかね書房 1991年

崖にある窪みの正体は?  
いくつもの可能性を探りながら、追求してみよう。



## 水の道

### 大海原を巡る

**めぐる生命の輪 深層海流二千年の大航海** 日本放送出版協会 1998年 (NHKスペシャル) 2000年の時をかけ、深層海流はグリーンランドから北太平洋へ流れる。深層海流とは何か？この海流によって私たちがうけている恩恵とは？

**クジラ 大海をめぐる巨人を追って** 水口博也著 金の星社 2004年 毎年北から南へ何千キロも大回遊するザトウクジラ。その勇壮な姿を追って、海を旅しよう。

**ウミガメの旅 太平洋2万キロ** 香原知志著 ポプラ社 1999年 (地球ふしぎはっけんシリーズ 2) ウミガメは、一生のほとんどを大海の旅に費やすという。1匹のアカウミガメをメキシコから日本へと追いかけてみた。

**ひょうざん** ローマ・ガンスぶん ブラディミール・ボブリエ 福音館書店 1995年 氷山はどのようにしてできるのだろうか。そして海をどのように旅するのだろうか。



**ウナギのふるさとをさがして** 望岡典隆文 狼林絵 福音館書店 2005年 (月刊たぐさんのふしぎ 通巻244号) 湖や川でくらすしているウナギは、大きくなると南の海へ向かい、産卵する。その地を求めて船出する。

**落ちて流れて旅するタネ モダマを追って** 深石隆司文と写真 大日本図書 2003年 モダマは大きな豆の木だ。タネは海を漂流し、各地に漂着し、人々の想像を掻き立ててきた。

### 川が運ぶもの

**メコン 源流をもとめて** 鎌澤久也文・写真 福音館書店 2008年 (月刊たぐさんのふしぎ 通巻284号) 全長4200kmのメコン川。川をさかのぼりながら、川と人々の生活との関係を考えてみる。

**凍れる河** オリヴィエ・フェルミ著 新潮社 1995年 インド最北部、ザンスカールには真冬になると1つの道ができる。それは凍てついた河。学校へ行くため兄妹は家を後にし、この道を進む。

**川との出会い** 小野有五著 岩波書店 1996年 (自然をみつめる物語 1) ぼくは、おじさんたちと川を探検した。川を上っていくと、たぐさんの驚き、不思議があった。

**水の惑星 地球と水の精霊たちへの讃歌** ライアル・ワトソン著 河出書房新社 2000年 地球を覆う水。その形は様々だ。雨や雪は河、滝となって流れる。湖や海となって広がる。



## 人類のたどった道

### 人類の出発

**人類発祥の地アフリカ** 関野吉晴著 小峰書店 2004年 (グレートジャーニー人類5万キロの旅 15) 人類誕生の地、東アフリカを目指し、関野吉晴は自分の足と腕だけの力で南アメリカを出発し、そのルートを辿った。ゴールはもうすぐだ。

**コン・チキ号漂流記** ハイエルダール著 偕成社 1976年 (偕成社文庫) 南太平洋に住む人々はどこから来たのか？いかだで航海して、実証してみよう、ハイエルダールは出航する。

**人類のあけぼの上・下** 朝倉書店 2005年 (図説人類の歴史 1,2) はるか昔、人類の祖先は長い進化への道を歩みだした。最前線の科学がその道のりを教えてくれる。



### 列島の夜明け

**相沢忠洋「岩宿」の発見 幻の旧石器を求めて** 相沢忠洋著 日本図書センター 1998年 (人間の記録 80) 行商をしながら、青年・相沢忠洋は赤土の崖の謎を追い続けた。崖から見つけた石器が意味することは何なのか。

**日本史を書き換えた岩宿の発見** 笠懸野岩宿文化資料館 1999年 (第27回企画展 岩宿遺跡発掘50周年記念特別企画展2) 相沢が発見した石器は日本の歴史を書き換えた！日本列島に存在した旧石器時代。列島の人類の歩みに思いを馳せたい。



東京都立多摩図書館  
児童青少年資料係

〒190-8543  
東京都立川市錦町6丁目3番1号  
電話:042(524)6428